【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和５年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	多久市立東原庠舎中央校

1　前年度 評価結果の概要	・教師の授業改善への意識は確実に向上している。児童生徒の自己学習力の育成に焦点を当てながら学力向上に繋げていきたい。 ・ほとんどの児童生徒が自他の生命を尊重する心や思いやりの心をもっている。今後はコミュニティスクールや地域の人材を積極的に活用しながら地域を挙げて児童生徒を育てていきたい。 ・朝食を毎日きちんと食べてこない児童生徒が増えきており、学力や健康に影響を及ぼすことも考えられる。PTAや家庭と連携しながら改善していきたい。 ・「学びやすい、働きやすい環境づくり」に向けて、更なる時間外勤務の削減、部活動指導員の充実等、改善できるところから業務改善を進めていきたい。
2　学校教育目標	**夢に向かって生き生きと輝く児童生徒の育成** **～地域と共に伸びゆく中央校をつくろう～**
3　本年度の重点目標	**・教職員の協働力を発揮した義務教育学校の推進** **・確かな学力の定着と不登校児童生徒の縮減** **・「個別最適な学び」「協働的な学び」に向けた教育の充実** **・コミュニティースクールの推進**

4　重点取組内容・成果指標　**中間評価**　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・ICTを活用し、学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○ICTを活用した授業を積極的に行い、タブレットなどを活用した学習が楽しいと答える児童生徒90％	・PDCAサイクルを意識した職員共通実践を今年度も継続し、成果指標達成を目指す。 ・より効果的な活用を目指し、研修を進め、利用する場面を増やす。	A	・タブレットを活用した授業が楽しいと答える児童は96%になっており、ICTを活用した実践が効果を結んでいる。今後も、ICTを活用した授業実践に取り組んでいく。	A	・タブレットを活用した授業が楽しいと答える児童は95%である。学習場面に応じたより効果的なICT活用に取り組んでいく。	A	・ICTを活用した授業を活用した授業を積極的に行い、授業改善に向けてた取り組みを行っている。今後もICT等を活用した授業を取り組んでほしい。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や教育相談に関するアンケートにおいて肯定的に回答する児童生徒90%以上	・様々な考えや生き方にふれられるように道徳の授業を担任だけでなく学年持ち回りで実施。 ・児童生徒が強みを見つけやすくなるような教師の日常的な声掛け。	A	・児童生徒が強みを見つけやすくなるような声かけを行っていると回答した教員は、94%である。児童生徒の一人一人の良さを認めることで、自己肯定感を高めようと心がけている。	A	・児童生徒が強みを見つけやすくなるような声かけを行っていると回答した教員は、100%である。児童生徒の一人一人の良さを認めることで、褒めることから始め、常に自己肯定感を高めようと心がけている。	A	・児童生徒が命の大切さがわかっているようで安心している。地域住民との交流を増やし、地域を挙げて児童生徒を育てていく雰囲気を醸成していければと考える。	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ見逃しゼロを目指す。 ○いじめ防止取組、事案対処について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・中央っ子アンケートや生活アンケートを毎月行い、早期に対応したり、各学級で「いじめ見逃しゼロ」を伝えたりする。 ・県教委の「いじめ対応動画」を活用する。	B	・「いじめ防止取組、事後対処において組織的対応ができている」とする職員が94%である。今後も意識の継続を図る。	A	・「いじめ防止取組、事後対処において組織的対応ができている」とする職員が98%である。教員同士が情報共有しながら、組織的対応を進めていく。	A	・全ての教員が組織的な対応をすることでより効果的な取組に繋がると考える。	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・日常的な声掛けでよさを認める。 ・年に2回教育相談を実施し、児童生徒の気持ちや困り感に寄り添った支援や指導を行う。 ・総合的な学習の時間でのキャリア教育を充実させ、将来について明るい見通しをもてるような授業を学年で取り組む。	A	・「褒めてくれる」と答えた児童生徒は、92%である。様々な場面をとらえ、教員が頑張りを認める声かけを行うことで、自分の良さや可能性を見つめる機会になっている。 ・「夢に向かい目標を決めてがんばっている」児童生徒の達成度は88%である。キャリア教育等で自己実現に向けての取組を進めていく。	A	・「褒めてくれる」と答えた児童生徒は、93%である。教員が小さな頑張りも見逃さず認めることで、自分の良さや可能性を見つめる機会になっている。 ・「夢に向かい目標を決めてがんばっている」児童生徒の達成度は91%である。キャリア教育等を充実させ、夢や目標に向けての考える機会を多く作る機会を進めていく。	A	・夢や希望のもてる子どもは毎日が楽しいのではないだろうか。これからも職場体験等を取り入れながら、将来の夢について考える機会をつくったり、幅広い選択肢を示したりして児童生徒の夢や志に繋げてほしい。	
	○ふるさとを大切にするための教育活動	○ふるさと「多久」のよさに気付いたと感じた児童生徒85%	・生活科、社会科、総合的な学習の時間の「多久学」等で多久市のよさを学ぶ学習に取り組む。	A	・「多久には良いところある」と答えた児童生徒は、90%である。生活科、社会科、総合的な学習の時間を活用して、故郷を見つめなおす機会を持った。	A	・「多久には良いところある」と答えた児童生徒は、92%である。今後も生活科、社会科、総合的な学習の時間を活用して、故郷を見つめなおす機会をもつ。	A	・多久のよさを見つけ、故郷を愛する児童生徒の育成に今後も努めてほしい。地域の行事等に積極的に参加してほしい。	
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成	○「早寝・早起き・朝ごはん」が身についている児童生徒90%以上 ○あいさつ、返事、履物そろえがいつもできる児童生徒90%以上	・PTAと連携しながら家庭への啓発をする。 ・食育だよりの発行。 ・児童・生徒会活動を通して啓発し、意識を高めるように声掛けをする。	B	・「早寝・早起き・朝ごはん」は概ね80%が達成できている。「挨拶・返事・履物そろえにつは90%達成できている。取組の途中であり、今後PTAと連携しながら家庭の啓発、児童・生徒会活動を通し更なる指導の充実を図る。	B	・「早寝・早起き・朝ごはん」は81%が達成できている。「挨拶・返事・履物そろえ」については92%が達成できている。今後も保護者と連携しながら家庭の啓発、児童・生徒会活動を通し更なる指導の充実を図る。	B	・望ましい生活習慣が健康につながることを児童生徒に理解させることは難しい。「食事」「睡眠」「運動」がどれだけ大切なことかを学校だけでなく、保護者と連携しながら啓発を続ける必要がある。	
	○健やかな体の育成	○体力向上に意欲的の取り組む児童生徒90%以上	・1年～6年でのスポーツチャレンジへの参加促進。 ・7年～9年での外部人材（部活動指導員等）を活用した運動部活動の推進。	A	・体育的活動は意欲的に取り組んでおり、目標値を超え96%の達成度である。	A	・体育的活動は意欲的に取り組んでおり、目標値を超え96%の達成度である。日常的な運動習慣の確立の取り組みを進めていきたい。	A	・遊びや手伝い等、体を動かす機会を意図的につくったり、短時間でよいので体操やストレッチの時間を設けたり、休み時間に体育館を開放したりするなど学校でエ夫して体力向上に取り組んでほしい。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●月45時間、年360時間の時間外在校等時間の上限を遵守する職員が80%以上。	・会議の効率化 ・定時退勤日の設定。 ・部活動休養日の設定。 ・学校閉庁日の設定。 ・電話対応時間帯の設定。	B	・時間外在校時間を意識した働き方をしている職員は76%であり、職員相互の声掛け等を行い、業務改善をさらに進める必要がある。 ・定時退勤日・部活動休養日（水曜）・電話対応時間を明確化し、業務改善につながった。	B	・時間外在校時間を意識した働き方をしている職員は76%であり、職員相互の声掛け等を行い、業務改善の意識をさらに高める必要がある。 ・定時退勤日・部活動休養日（水曜）・電話対応時間を明確化し、業務改善につなげる。	B	・意識して改善できるところから、少しずつ取り組んでもらいたい。 ・部活動指導員が複数名配置されているが、更なる時間外勤務時間の削減のために充実させてほしい。	
	○学びやすい、働きやすい環境づくり	○業務改善ができたと感じる教職員80%以上	・業務改善について、教職員で話し合って整理し、スリム化を図る。	B	・「本校は学びやすく、働きやすい環境づくりができている」とする職員が69%である。今後もソフト面、ハード面の充実により、よりよい環境づくりに努めていく。	A	・「本校は学びやすく、働きやすい環境づくりができている」とする職員が89%である。今後ソフト面、ハード面を充実し、環境づくりに努めていく。	A	・教員が楽しく仕事ができれば、児童生徒にも良い影響があると考えられる。今回の課題を整理し、よりよい環境づくりに努めてもらいたい。	

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○特別支援学級在籍児童生徒の進路選択にかかる情報の共有と拡充 ○学校教育支援員の専門性向上	○特別支援学級児童生徒と保護者への進路指導スキルが向上した教員90%以上 ○専門性が向上した支援員90%以上	・特別支援教育COによる面談や特別支援児童生徒の進路に関する研修会の実施。 ・支援員への研修会の実施。	B	・「特別支援学級在籍児童生徒の将来を見通した指導・支援を行うことができている」とする職員が85%であり、数値目標をやや下回っている。	A	・「特別支援学級在籍児童生徒の将来を見通した指導・支援を行うことができている」とする職員が96%であり、数値目標を上回っている。	A	・子どもの将来について不安を抱える保護者も多いと考えられる。これからも教員と保護者が情報共有を十分に行い、支援が必要な児童生徒のサポートに繋げてほしい。	
○家庭・地域との連携	○義務教育学校・コミュニティースクールとして児童生徒の人間的自立を実現 ○自ら進んで挨拶ができる児童生徒の育成	○学校・家庭・地域が三位一体となって児童生徒を育てていると感じている教職員・保護者80%以上 ○自ら進んで挨拶できると答える児童生徒70%以上	・コミュニティスクール新聞(仮題)を定期的に発行し、学校・家庭・地域相互の理解促進や活動への啓発を行う。 ・地域の関係団体と連絡を密にし、連携を強化したり、人材バンクの整理を行う。 ・学校と家庭や地域が連携し、進んで挨拶ができる児童生徒の育成を図る。	B	・達成度は72%である。教育活動の中で地域との連携は行われており、学校・家庭・地域相互の理解促進や活動への啓発を続ける。 ・挨拶を含めた児童生徒の生活習慣についてできていると答えた児童生徒が90%となり成果指標には達している。今後も指導を継続していく。	B	・達成度は、教職員では89%、保護者では74%である。教育活動の中で地域との連携は行われており、学校・家庭・地域相互の理解促進や活動への啓発をさらに続ける。 ・挨拶を含めた児童生徒の生活習慣についてできていると答えた児童生徒が92%となり成果指標には達している。	B	・情報を共有しながら、地域と連携した活動を進めていってほしい。今後、お互いの顔を知ることが学校と地域の関係づくりにとっては大事だと考える。 ・登下校中の児童生徒とすれ違う際、ほとんどの子どもが挨拶をしてくれる。良い傾向を継続させるためにも周囲の大人がもっと高い意識をもたなければいけない。	

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・教師の授業改善への意識は確実に向上している。次年度もICT活用を含め、個別最適な学び、協働的な学びに焦点を当てながら学力向上に繋げていきたい。 ・ほとんどの児童生徒が自他の生命を尊重する心や思いやりの心をもっている。今後はコミュニティスクールや地域の人材を積極的に活用しながら地域を挙げて児童生徒を育てていきたい。 ・朝食を毎日きちんと食べてこないなど生活習慣の乱れから、学力や健康に影響を及ぼすことも考えられる。PTAや家庭と連携しながら改善していきたい。 ・「学びやすい、働きやすい環境づくり」に向けて、更なる時間外勤務の削減、部活動指導員の充実等、改善できるところから業務改善を進めていきたい。